学　会　記　事

第277回新潟循環器談話会

日　時　平成25年12月14日（土）
午後3時～午後6時
会　場　白山会館　1階「芙蓉」

I．一　般　演　題

1　血清アルブミンの低下は高血圧発生の予知因子であった

小田　栄司
たちかわ総合健診センター

【背景】血清アルブミンは，横断的には血圧と正の相関関係にあると報告されている．しかし，アルブミンは抗炎症，抗酸化作用を有しており，血清アルブミンが将来の血圧と負の相関関係を示す可能性が考えられる．

【目的】血清アルブミンと高血圧発生の縦断的関係を検討する．

【対象】2008年度に当センターの人間ドックを受診して，受診時，高血圧，心臓血管病の既往，高血圧，糖尿病，高脂血症の薬剤投与がなく，同意書に署名した2,626人のうち，以後4年間に再受診した2,240人．

【方法】高血圧発生の多因子補正ハザード比（HR）を，血清アルブミン1 SD増加，血清アルブミンの最小四分位数群（albumin 3.0－4.1g/dL）を基準とした高位四分位数群（albumin 4.2－4.3，4.4，4.5－5.0），および，血清アルブミン4.0 g/dL以下について，Cox回帰を用いて計算した．

【結果】4年間で331人（14.8％）（3.7％/年）が高血圧を発症した．高血圧発生率は，血清アルブミンの四分位数群において，アルブミンの上昇とともに有意に低下する傾向が認められた（p＝0.012）．血清アルブミンは，横断的には血圧との間に有意な正の相関が見られたが，縦断的には血圧変化/年との間に有意な負の相関が見られた（収縮期血圧変化/年 r＝－0.115，p＜0.001；拡張期血圧変化/年 r＝－0.075，p＜0.001）．血清アルブミンの1 SD増加に対する高血圧発生HR［95％信頼区間（CI）］は，年齢，性，BMI，喫煙，飲酒，身体活動，拡張期血圧で補正して，0.796［0.711－0.892］（p＜0.001）であった．男女別解析では，男性では0.828［0.716－0.957］（p＝0.011），女性では0.783［0.651－0.943］（p＝0.010）であった．血清アルブミンの第2，第3，第4四分位数群に対する高血圧発生HR［95％CI］は，年齢，性，BMI，喫煙，飲酒，身体活動，拡張期血圧で補正して，それぞれ，0.743［0.564－0.980］（p＝0.035），0.622［0.441－0.878］（p＝0.007），0.574［0.405－0.813］（p＜0.001）であった．血清アルブミン4.0 g/dL以下に対する高血圧発生HR［95％信頼区間（CI）］は，年齢，性，BMI，喫煙，飲酒，身体活動，拡張期血圧で補正して，1.591［1.164－2.173］（p＝0.004）であった．

【結論】健診受診者において，血清アルブミンの低下は高血圧発生の予知因子であった．

【限界】本研究は前向き追跡研究ではなく，後ろ向き観察研究であって，対象は一般住民ではなく，健診受診者であった．塩分摂取量，蛋白質摂取量，家族歴，尿アルブミンなどのデータは欠落していた．

【考察】血清アルブミンは抗炎症，抗酸化作用があり，高血圧予防作用を有する可能性が示唆された．また，蛋白質の摂取不足が高血圧発生に寄与する可能性も考えられた．

2　高齢者におけるダビガトランの投与量について－75mgx2の投与量の検討

田村　　真
聖園病院循環器内科

ダビガトランの常用量は330mg/日，高齢者には220mg/日である．しかし，日本人の大出血の